令和２年　第１回　定例会－02月20日-03号

◆二番（小林あすか　君）　私は、通告に従い質問をさせていただきます。

　質問に先立ち、現在、深刻な問題となっているコロナウイルス感染症に対し、対策本部を設置するなど、区の現在の対応に、区民を代表し心から感謝を申し上げます。区民生活の安心・安全を守るためにも、迅速かつ柔軟な対応をしていただくとともに、情報公開を徹底していただきたいと思います。引き続き、よろしくお願いいたします。

　それでは、質問に入ります。

　未来を支える江戸川こどもプランの基本方針には、子どもの豊かな人間形成のための環境づくり、子育て家庭を支える環境づくりと記されています。この、未来を感じる内容と事業を推進する江戸川区に、大きな期待を持っています。そこで、この二つの方針に関して、区の現状を踏まえ、質問いたします。

　令和元年十二月、創造性を育む教育ＩＣＴ環境の実現に向けて、文部科学省が「ＧＩＧＡスクール実現推進本部」を設置しました。これにより、令和を生きる子どもたちの教育環境は、今よりも実りの多いものになることが期待されます。子どもたちの教育環境が目まぐるしく変化する一方、保護者と学校との連絡手段については、古くからの慣習が残っており、改善を望む区内の保護者の声が、私のもとに多く届いています。

　まず一つ、区立の小学校では、子どもたちの欠席や遅刻の連絡において、いまだ何十年も前からの方法、連絡帳をお友達に手渡しし、それを先生に届けてもらうという方法を続けています。この方法に関しては、具合の悪い子どもや、幼い兄弟を家において、友人宅に連絡帳を持っていかねばならず、大変困る。近所に親しい友人がいないため、結局、学校まで連絡帳を届け、また、取りに行かねばならず、手間が多い。先生や友人が連絡帳を届け忘れることもあり、結局、電話で何度も確認することになり、不安な上に効率が悪いなど、保護者からは使いにくさの意見が、絶えず私のもとに届いています。

　加えて、個人情報保護の観点からも、子どもの情報が詰まっている連絡帳を、友人とはいえ預けることに抵抗がある方、手元から離れることに不安を抱える方も多いと聞きます。私立の小中学校や幼稚園、保育施設の中には、既にＩＣＴを活用した欠席や遅刻、早退の連絡を、保護者との間でオンラインによるやりとりを採用しているケースもあります。なぜ、区立の小中学校では、この令和の時代に、何十年も前のやり方を貫いているのかと疑問に持たれている方々がとても多く、学校とのやりとりの効率化、確実、安全な方法を望む声は、私の周辺の子育て世代からも聞いています。

　また、同じく学校とのやりとりにおいて、印鑑文化についても、保護者からは改善を望む声が多く届いております。夏のプール授業や冬のマラソン授業などは、子どもたちの安全を確保するために、小学校などでは特に、保護者の同意を必ず学校に提出いたします。提出するプールカードや書類には押印が必要で、保護者の署名があったとしても、ペンで書かれたサインでは受理されません。その理由として、学校長や担任の教職員からは、サインでは子どもが書いたのか保護者が書いたのかわからない。日本では昔からの印鑑の信頼性が高いと、説明をされるそうです。

　しかし、現在、多くの家庭では、子どもでも簡単に押印できる判子があり、それを使用して書類を提出している方々が多いのが現状です。そのような押印は、果たして子どもが押したのか、保護者が押したのか、区別することはできるのでしょうか。

　さらに、外国にルーツを持つご家庭では、そもそも印鑑を持たれていないことも多く、実際にはサインで対応されることもあるようです。押印にこだわっている理由は何なのでしょうか。押印をすることが、真に子どもたちの安全を守ることにつながっているのでしょうか。私は、保護者の方々のこのような疑問の声に、諦めにも近いものを感じています。学校と保護者とのやりとりは、子どもたちの命を守るために、絶対に不備があってはいけません。そのためにも、ＩＣＴを活用し、より安全で確実な、かつ両者ともに効率化できるオンラインでのやりとりができる環境の整備を、早急に望みますが、教育長のご所見をお伺いいたします。

令和２年　第３回　定例会

◆二番（小林あすか　君）　私は、通告に従い質問をさせていただきます。

　質問に先立ち、現在、深刻な問題となっているコロナウイルス感染症に対し、対策本部を設置するなど、区の現在の対応に、区民を代表し心から感謝を申し上げます。区民生活の安心・安全を守るためにも、迅速かつ柔軟な対応をしていただくとともに、情報公開を徹底していただきたいと思います。引き続き、よろしくお願いいたします。

　それでは、質問に入ります。

　未来を支える江戸川こどもプランの基本方針には、子どもの豊かな人間形成のための環境づくり、子育て家庭を支える環境づくりと記されています。この、未来を感じる内容と事業を推進する江戸川区に、大きな期待を持っています。そこで、この二つの方針に関して、区の現状を踏まえ、質問いたします。

　令和元年十二月、創造性を育む教育ＩＣＴ環境の実現に向けて、文部科学省が「ＧＩＧＡスクール実現推進本部」を設置しました。これにより、令和を生きる子どもたちの教育環境は、今よりも実りの多いものになることが期待されます。子どもたちの教育環境が目まぐるしく変化する一方、保護者と学校との連絡手段については、古くからの慣習が残っており、改善を望む区内の保護者の声が、私のもとに多く届いています。

　まず一つ、区立の小学校では、子どもたちの欠席や遅刻の連絡において、いまだ何十年も前からの方法、連絡帳をお友達に手渡しし、それを先生に届けてもらうという方法を続けています。この方法に関しては、具合の悪い子どもや、幼い兄弟を家において、友人宅に連絡帳を持っていかねばならず、大変困る。近所に親しい友人がいないため、結局、学校まで連絡帳を届け、また、取りに行かねばならず、手間が多い。先生や友人が連絡帳を届け忘れることもあり、結局、電話で何度も確認することになり、不安な上に効率が悪いなど、保護者からは使いにくさの意見が、絶えず私のもとに届いています。

　加えて、個人情報保護の観点からも、子どもの情報が詰まっている連絡帳を、友人とはいえ預けることに抵抗がある方、手元から離れることに不安を抱える方も多いと聞きます。私立の小中学校や幼稚園、保育施設の中には、既にＩＣＴを活用した欠席や遅刻、早退の連絡を、保護者との間でオンラインによるやりとりを採用しているケースもあります。なぜ、区立の小中学校では、この令和の時代に、何十年も前のやり方を貫いているのかと疑問に持たれている方々がとても多く、学校とのやりとりの効率化、確実、安全な方法を望む声は、私の周辺の子育て世代からも聞いています。

　また、同じく学校とのやりとりにおいて、印鑑文化についても、保護者からは改善を望む声が多く届いております。夏のプール授業や冬のマラソン授業などは、子どもたちの安全を確保するために、小学校などでは特に、保護者の同意を必ず学校に提出いたします。提出するプールカードや書類には押印が必要で、保護者の署名があったとしても、ペンで書かれたサインでは受理されません。その理由として、学校長や担任の教職員からは、サインでは子どもが書いたのか保護者が書いたのかわからない。日本では昔からの印鑑の信頼性が高いと、説明をされるそうです。

　しかし、現在、多くの家庭では、子どもでも簡単に押印できる判子があり、それを使用して書類を提出している方々が多いのが現状です。そのような押印は、果たして子どもが押したのか、保護者が押したのか、区別することはできるのでしょうか。

　さらに、外国にルーツを持つご家庭では、そもそも印鑑を持たれていないことも多く、実際にはサインで対応されることもあるようです。押印にこだわっている理由は何なのでしょうか。押印をすることが、真に子どもたちの安全を守ることにつながっているのでしょうか。私は、保護者の方々のこのような疑問の声に、諦めにも近いものを感じています。学校と保護者とのやりとりは、子どもたちの命を守るために、絶対に不備があってはいけません。そのためにも、ＩＣＴを活用し、より安全で確実な、かつ両者ともに効率化できるオンラインでのやりとりができる環境の整備を、早急に望みますが、教育長のご所見をお伺いいたします。

令和２年決算特別委員会（第７日）－10月08日-07号

◆小林あすか　委員　先ほど性教育の話がありました。１点、私からも意見を述べさせていただきます。

　性教育を避けることで様々なトラブルのリスクがあるというエビデンスだったり、データがあるというのなら、正しく伝えることで様々なリスクを回避できるのではないかなと私も考えておりますので、ぜひご検討、調査いただければと思います。

　まず１点目です。代表質問でもお伝えいたしました。学校と保護者とのやり取り、相互やり取りのオンライン化というところでございます。こちらに関しては、教育長からとても丁寧にご答弁いただきましたので、ここでは意見と要望ということにさせていただきますが、やはり需要があったり、教育長もおっしゃいましたが、様々な媒体がある中で、本当に子どもたちの安全を守るためには何なのか、学校と保護者が本当に分かり合えるというか、本当にうまく意思疎通ができるのはどういったものがあるのか、もちろん対面だからこそいいものもありますし、オンラインだからこそ言える部分、匿名性があったりというところであるかと思いますので、ぜひ引き続きご検討お願いいたします。私の質問を随時見ている保護者もいるので、教育長のご答弁を保護者も見ておりますので、ぜひ今後ともよろしくお願いいたします。

令和３年予算特別委員会（第７日）－03月08日-07号

◆小林あすか　委員　連絡帳、感染防止のためになるべくやり取りをしないようにというところから、電話のやり取りというところだったかと思うのですけども、そもそも、電話のやり取りも、やはり教職員の先生方のやはり業務負担というところで、いろいろ危惧されていて、わざとというか、あえてやっていなかったという話も聞いております。そうしたところで、やはりこのコロナをきっかけにするというわけではないですけれども、やはり連絡帳を使って欠席する、連絡をやり取りするというやり方でしたり、電話もやはり、実際学校の先生が、その時間、電話番にしなきゃいけない。本来であればやはり子どもたちと向き合わなきゃいけないという、向き合っていただきたい、子どもたちと接していただきたいという時間、それに拘束してしまうのもあまり前向きではないのかなというところで、ぜひともオンラインでやり取りでしたり、今様々なアプリがあったりとかして、欠席の連絡、早退の連絡、遅刻の連絡の工夫できる媒体があるかと思うんですけれども、この辺りの検討は、今のところどのような感じになっていますか。

◎近津勉　指導室長　今こうした社会の状況の中であり、また今後、ＩＣＴ機器が学校に配備されていく中で、どのような方法を、どのようなやり方、そういったものが保護者にとっても、あるいは学校にとってもよろしいのかということについては、鋭意研究をしてまいりたいというふうに考えます。

◆小林あすか　委員　今、保護者にとっても、学校にとってもというお話がありました。なかなか様々な事情があるので難しいところかなとは思います。なるべく連絡帳に戻ってほしくないなというところが一つあるのは、一つはやはりこのコロナ禍で、やはり感染とか、物によっていろいろな菌であったり、ウイルスが媒介して行き来するということを、すごく保護者の方も気にするようになったことが１点と、やはりセキュリティの問題をすごく気にされる声がすごく多いです。いろいろな連絡帳、中には個人的な個人情報もしかり、いろいろな内容が入ったものを、やはりちょっと子どもが持っていくと、落としてもいけないし、のぞき見されても怖いしというところ、すごく気にされている方もいらっしゃるので、特に、ぜひ電子化にしてくれというわけではなくて、今の時代に合ったいろいろなやり方があるかと思いますので、お言葉ありました、鋭意研究というお言葉ございましたので、ぜひ新しいやり方を研究していただければなと思います。

令和３年　４月　文教委員会－04月13日-14号

◆小林あすか　委員　今年度から、学生に１人１台の端末が準備されるということで準備されているかと思うんですけれども、他区の情報にはなるんですけれども、２３区内でタブレットを配付すると同時に、そのタブレットの中に、オンラインで家庭と学校と出欠席の確認ができるようなアプリを導入したりとか、そのシステムを入れて、活用したい学校があれば使ってくださいというようなところの動きが出てきております。

　それに伴って、江戸川区は私もいろいろなところで言っておりますが、やはり保護者、家庭のニーズとしては、昔からやっている連絡帳のやり取りへの心配でしたり、今コロナの感染で何か物を媒介して、子どもたちと学校とやり取りするということが大分減ってきたりとかしているので、これのタブレットをきっかけに少し前向きに考えていただけるとうれしいなと思っているところなんですけれども、現状いかがお考えでしょうか。

◎飯田常雄　教育推進課長　委員さんがおっしゃったように、ＧＩＧＡスクールの１人１台端末の導入に合わせて、そういった出欠確認ができるようなアプリケーションを導入している自治体が他区であるというところは把握してございます。

　出欠席の確認につきましては、専用のアプリケーションというのはもちろんあろうかと思いますが、いわゆるＧＩＧＡスクール端末に標準的に搭載されているオンライン電話ができるような、オンライン会議ができるようなソフトであったりとか、アンケートができるようなソフトであったり、こういったものを活用しても様々な連絡ができるというところは、文部科学省の資料のほうでも示されていて、それをうまく使って家庭との連絡もできますよというところは、文科省からの資料でも確認しているところでございます。

　今配備しているこの端末の中で、様々なことができるかと思いますし、また違ったアプリケーションを入れて、さらに便利になっているところもあろうかと思いますが、どういった形で委員さんがおっしゃる連絡帳のような機能、これからどうしていくかというところにつきましては、現場の先生方とも今後協議させていただきながら、研究してまいりたいと考えてございます。

◆小林あすか　委員　特にアプリを入れなくても、いろいろ検討されているお声を聞けてちょっと安心しております。いろいろ連絡帳のいい点、電話でのやり取りのいい点、オンラインでのいい点あるかと思うんですけれども、結構この件に関しては、やはりご家庭の様々な問題が結構複雑怪奇につながっておりまして、学区外から通われている方が結構、江戸川区少なくないので、学区外の保護者の方とかは結構やはりその辺りは切実な思いがあったりするところがございますので、家庭の状況と学校の状況、いろいろどこが一番いいかなというの見定めていただいて、みんなが負担ない方法を探していただければなと思います。